

日本子ども学会 学術集会

第12回「子ども学会議」報告

テーマ「かしこい身体、じょうぶな頭、しなやかな心
～子どもの睡眠と運動と脳とこころの発達～」

日程：2015年 10月10日(土)・11日(日)

会場：甲南女子大学



Program

プログラム

1

日目 10月10日(土)

10:00

開会

10:15

教育講演

「子ども一人ひとりのためのスリープフィットネス
～いつ寝るべきか、どれだけ寝るべきか～」

三島 和夫 (国立精神・神経医療研究センター)

座長：榊原 洋一 (日本子ども学会理事長)

12:00

昼休み／理事会

13:00

総会

13:30

大会長講演

「かっこいい身体、じょうぶな頭
～身体性からみた子どもの脳とこころの発達～」

中井 昭夫 (子どもの睡眠と発達医療センター)

座長：小林 登 (日本子ども学会名誉理事長)

14:30

シンポジウム 1

「不器用な子どもたち
～発達性協調運動障害という視点からの理解と支援～」

笹森 理絵 (当事者・保護者・支援者)

岩永 竜一郎 (長崎大学)

澤江 幸則 (筑波大学)

中井 昭夫 (子どもの睡眠と発達医療センター)

座長：河合 優年 (武庫川女子大学)



シンポジウム 1

16:30

ラウンドテーブル

「クウ・ネル・アソブ」で子どもイキイキ! 活力全開!

井上 高光 (学校法人さつき幼稚園)

企画・総合司会：大橋 節子 (創志学園)

17:30

ポスター・セッション

19:00

イブニング・セッション

(懇親会、ポスター発表優秀賞表彰式)

2日目 10月11日(日)

- 9:30 基調講演
「赤ちゃんに社会生活リズムを教える」
 三池 輝久（子どもの睡眠と発達医療センター）
 座長：小西 行郎（同志社大学）
- 10:30 シンポジウム 2
**「子どもの睡眠障害の最前線
 ～治療から先制医療、そして眠育へ～」**
 田島 世貴（子どもの睡眠と発達医療センター）
 加藤 隆史（大阪大学大学院）
 前田 勉（NPO法人里豊夢わかざ）
 三池 輝久（子どもの睡眠と発達医療センター）
 座長：小西 行郎（子どもの睡眠と発達医療センター）
- 12:30 ランチョンセミナー
**「発達のひずみや偏りを障害としないために
 ～治療的発達支援の工夫～」**
 北山 真次（姫路市総合福祉通園センター）
 座長：中井 昭夫（子どもの睡眠と発達医療センター）
- 13:30 特別講演
**「じょうぶな頭、しなやかな心
 ～子どもたちの生きる力、本当の自立のために必要なこと～」**
 品川 裕香（教育ジャーナリスト）
 座長：木下 真（日本子ども学会事務局長）
- 14:30 公開シンポジウム
**「子どもが地域社会でともに育ち合う環境とは
 ～認定こども園・家庭・研究者の責任～」**
 山縣 文治（関西大学）
 北野 幸子（神戸大学）
 安家 周一（あけぼの幼稚園）
 梅崎 高行（甲南女子大学）
 榊原 洋一（日本子ども学会理事長）
 座長：一色 伸夫（甲南女子大学）
- 16:45 閉会



シンポジウム 2



公開シンポジウム

第12回 子ども学会議 (日本子ども学会学術集会) 報告

『かしこい身体、じょうぶな頭、しなやかな心 ～子どもの睡眠と運動と脳とこころの発達～』

大会長 中井昭夫

(兵庫県立リハビリテーション中央病院 子どもの睡眠と発達医療センター副センター長)

第12回子ども学会議(日本子ども学会学術集会)を2015年10月10日(土)、11日(日)の2日間、神戸市の甲南女子大学で開催させていただきました。神戸市での開催は第3回以来となります。

メインテーマを「かしこい身体、じょうぶな頭、しなやかな心」とし、「身体性」「生体リズム」「多様性」「発達障害」「先制医療」「レジリエンス」などをキーワードに、子どもの「脳」と「こころ」の発達における身体性の重要性について改めて考え、議論できる場となるべく、プログラムを企画いたしました。三島和夫先生による教育講演、三池輝久先生による基調講演、品川裕香先生による特別講演、北山真次先生によるランチョンセミナー、不器用・発達性協調運動障害、子どもの睡眠障害に関するシンポジウム、どれも素晴らしく、刺激に満ちたもので、白熱したディスカッションが展開されました。また、2日目の午後には「認定こども園」に関する公開シンポジウム、更に、特別企画として、子どもたちによる造形展を開催しました。懇親会は神戸1000万ドルの夜景を見渡せる素晴らしい会場で行われました。

また、第12回の特徴として、子ども学会議としていくつかの初めての試みにチャレンジしました。1つ目は異なる所属機関の大会長と実行委員長のコラボレーションによる開催です。試行錯誤しながらコミュニケーションを密に、実行委員会・事務局一丸となり運営を行いました。2つ目は、広く開かれた学会を目指し、実践家と研究者がともに語りあうラウンドテーブル「カウ・ネル・アソブ」の開催、最後に「子ども学」のさらなる普及のために、新規入会と参加費のセット割の設定も行いました。結果、事務局集計で491名(うち公開シンポ167名)と過去最高のご参加をいただき、セット割を利用して新規学会員となられた方も58名おられました。ポスター発表も過去最多の51題を採択し、収支的にも、学会本部にご迷惑をおかけせずに終わることができました。参加された方からも、アットホームで楽しいながらも、その内容は学術的であり、非常にエキサイティングで大変有意義な学会だったとお言葉を多数頂戴いたしました。今後の学術集会のあり方のひとつのモデルとしても寄与できたのではないかと考えています。

最後になりましたが、本学術集会を開催するにあたりまして、ご参加いただいた皆様、ご講演の演者、シンポジスト、座長の労をおとり下さいました先生方、ご後援、ご協賛いただきました団体、大学、企業の皆様、また多大なご協力をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。